

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	東京電機大学				
取 組 名 称	学習意欲向上のためのフィードバック型教育				
取組学部等	情報環境学部				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A22145	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申請の分類	専門基礎	初年次教育		FD・SD	
キーワード	基礎教育の質, 基礎教育科目と専門科目をつなぐ「ブリッジ科目」, フィードバック, S I E M, ミニコース型履修				

<選定理由>

本取組は、学生の学習意欲を継続的に向上させるという視点から、学生からのフィードバックを積極的に活用しようとするプログラムとして評価できる。特に、入学直後のカリキュラム計画のための集中講義、授業時間を可変とする柔軟な取組、学費単位従量制、学年制の廃止などの諸工夫については、大学を挙げての真摯な教育改革への取組として意義を有するものである。また、これまでの実績として教員の評価に学内他学部の教員の視点を取り入れるなどの積極的な取組がなされており、コーディネータを置いて授業を柔軟に改善しようとする具体的な計画を立てていることも評価できる。

今後は、教員による自己評価の活用方法やコーディネータシステムの安定的な運営のために更なる工夫・改善を行い、着実にその成果を上げることを期待する。

取組の概要【1 ページ以内】

高等学校等から約50%の生徒が大学に入学する時代を迎え、大学で受け入れる学生は多様化し、個々の学生に適応した教育の必要性がますます高まっている。大学は、卒業生の質を保証しつつ、多様な学生に適応できる教育を実践しなければならない。

大学が社会に対して学生の質を保証するためには、基礎教育の質を確保する教育システムを確立する必要がある。

本学部では、次の「フィードバック型教育」の取組を実施することにより、初年次教育、基礎教育等における受講者（学生）のモチベーションの向上と、学習効果の向上を図り、基礎教育の質を確保する。

【①学生参加型授業改善システムの構築】

基礎教育科目と専門科目をつなぐ「ブリッジ科目」について、教員と学生が連携する授業改善システム（即時フィードバック）を構築し、個々の学生が、学習する科目の位置づけ・重要性を認識できるようにする。

【②ミニコース型履修におけるフィードバックシステム】

ミニコース（事前履修条件科目の指定などにより、関連する科目によって成り立っている履修体系）において、コーディネータを介した基礎教育科目と後続の科目間でのフィードバックシステムにより授業改善を実施し、基礎教育の質を確保するとともに、多様化する学生への的確な対応によりドロップアウトする学生を減少させる。

【③SIEMを活用した学生のモチベーション向上】

SIEM（ジーム：Systematical Information Education Method 学生の学習意欲の向上を目的とした教育手法。学生のモチベーションをリアルタイムに測定し要因分析を行う本学部が独自に開発したシステム）を、各基礎科目において活用し、その分析結果をフィードバックすることにより、授業改善を図り、①②のフィードバックの相乗効果を高める。

本学部には、導入部である基礎科目から、専門科目への移行を円滑にするための橋渡しの基礎専門科目「ブリッジ科目」が存在する。本取組では、基礎科目およびブリッジ科目について、重点的に学習効果を高める取組を実施することにより、専門科目の理解を深めることをねらいとしている。

また、本取組の実現のため、学部開設期に合わせ本学部独自に開発したweb上の「ダイナミックシラバス」（学生の履修計画支援システム。成績・シラバス・学籍情報などのデータを含む。）に、科目間の関連付けを考慮し、さらなる機能を追加した「ダイナミックシラバス Ver. II」を構築し、「フィードバック型教育」の強力なツールとしていく。

